近所の農家さん

藤村（ふじむら） 省吾（しょうご）さん（26）
（東秋留地区）

ブロッコリー畑で

藤村さんの目標は、あきる野市で1番のトウモロコシ農家になること。

幼い頃から身近に農地があり、農業に触れる機会が多かったことから、高校生の頃には就農を決意。大学では農学部を専攻し、卒業後は2年間、地元の農家さんのもとで、栽培や経営・マーケティングのノウハウを身に付け、2023(令和5)年8月に就農した。

現在、夏はヤングコーン・トウモロコシ、秋冬はブロッコリーを中心に小松菜やニンジンなどを、秋川ファーマーズセンターへ出荷している。最近では学校給食にも野菜を納品している。「採れたての新鮮な野菜を、地元の小学生に食べてもらいたい」と話し、今後はさらに積極的に取り組むそうだ。

栽培作物では、特にトウモロコシに力を入れており、糖度が高くて食味が良いゴールドラッシュなど、数種類の品種を150アールの農地で栽培をしている。※前進栽培に取り組んでおり、種まきを2月上旬から始めてハウスとトンネルの二重保温で温度管理をし、今年は目標とした5月下旬に早期出荷を果たした。また、長期出荷を目指し、種まきは7月上旬まで順々に行い、播種（はしゅ）時期によって栽培管理を変え、9月上旬まで毎日収穫した。

6月下旬に収穫ピークを迎え、多い日には1日約1000本を秋川ファーマーズセンターに出荷した。

5月下旬に出荷したトウモロコシ

トウモロコシをよりおいしくお客様に食べてもらえるように、周りの先輩農家から見聞きしたことや、自身で調べたさまざまなことを試して取り入れている。例えば、酢や魚介エキス・アミノ酸などの一週間ごとの散布で、収量が増え、より甘いトウモロコシができたという。「気温が上がってから収穫したトウモロコシは糖度が下がるため、日が昇る前に収穫し、採りたての商品をお客様にお届けしている」と話す。

藤村さんは、多くの農家やお客様と関わる中で、農地や秋川ファーマーズセンターを残し続けていきたいと考えている。「農家は自然が相手で大変なことは多いが、やりがいも多く、お客様から感謝される仕事だと思う。直売所はお客様の声を1番近くで聞くことができ、ふれあえる貴重な場所であり、励みになる」と話す。

休日はほとんど無いが、ドライブが好きで、車窓から見える畑が気になり、観察してしまう。観光地でも道の駅や直売所へ足を運び、商品を見て市場調査も欠かさないという。将来的には農地を倍の300アールまで増やし、品質にも妥協せず、こだわり続けるそうだ。

「あきる野市で農家といえば“藤村”と自分の名前があがるような農家になれるよう、取り組んでいきたい」と話した。

※前進栽培…作物の収穫時期を早める栽培方法